

周易鈔

訟 同人 坤 復 八  
臨 泰

山東藏

卷之三

新編

天水訟

○繇曰訟有孚室惕中吉終凶利見大人不利涉大川訟吝无攸利利見大人不利陽往中介小亨无攸利或拂彌悔勿恤也訟往无攸利往不威也是匪咎無攸利訟往无攸利往不威也

彖曰訟上剛下險之而健訟口舌之則无往

往一往无攸利

彖曰訟上剛下險之而健訟口舌之則无往

勢ありて、アヌホギ、アヌ陰を以テ、上者階級ノビシ去小  
ちつ、弘のことは、キラキラつひ、トスラゼ、キミヤニ極め  
ほんとされバ、却くあしく利もたら時々難あムと、  
ツカキナリ、

○象曰、天與木違行訟君子以作事謀始と云ハ、  
上ミト乾の天、下モ古木の木々ト、トトわ違とハ弘のモトめが  
ラモ、君子は必ずんと人道も、あらそひあらみ時うるなり、  
ちとエレ、巾始と健莖、けんおもて凡と始とまか主、微細  
時々折芻あるまく、あかね遠と、塵とてヨリナヒ塵とみ  
情でよれり、

○初六、不永所事、小有言、終告、げあら主事、柔弱  
ならオ少々、リ小あらかみ、モ弘、と極ろとくふして、ゆ  
言とあきち、強少はよに、ゆくわふく、物を十か少弘て、  
争とく、モ変と矢て、ゆみりバ、弘と互も相手情ど  
よきなり、

○象曰、不永所事、訟不可長也、雖小有言、其辯明也、  
と云は、陰柔あく、リああ是て、モ弘が長ちると、ハ勝と  
シテ、禍の及とを、思ひああ是て、ト云は、じいわふく、

き弘へどりきも長ぢるともと、とうらの正しくて  
そ理とあきらかみ分あらば、永弘、あらきづみ情ふて吉也。  
○九二、不克訟歸而逋其邑人三百戸无眚、けめく  
王市ハ陽剛のつよにぎれ、險而不あり、弘とすまめまうる、  
危甚、おのみも陽剛ふく、君の停、あらふとまを至難、  
敵まくからば、ちくいの、克せざりてゆく、退ひて  
あらば、眚むからむ、せんわせんは、翁の、あらびとくえん  
情で、まきなり。

○魚曰、不克訟歸逋富也、自下訟上患至撋也、と云、  
義の、ふ正とは、弘へど、克するをなはぬより、敵するを  
退ひく、得て、是も、ちくい、是非と弘と、義もそ  
もき、幣屬して、禍の至るをあらんけん、けんをも命  
と、時々、多かり、

○六三、食舊德貞、厲終吉、或從王事、无成、はあと  
王市ハ陰柔にして、二陰の、らふ、また、凶として、あらふり、危と  
をねられ、弘とすまめの、あらびとぞ、玄程よ、食舊徳、と  
云て、神も陽も無にて、かくて守、あらば未とふま不ら、  
弘さる、おげひやかく、陰柔をすまめの、陽剛ふきがひ、下る

おひがいとおもひがいとおひがいと  
おひがいとおもひがいとおひがいと

○象曰、食舊德、從上吉也。○九三は、戒小无往有利也。  
○九三、命、勿休。○九四、勿休，勿友。○九五、勿休，勿友，君子有终。○九六、勿休，勿友，君子有终。○九七、勿休，勿友，君子有终。○九八、勿休，勿友，君子有终。○九九、勿休，勿友，君子有终。

ほよくいうちとゆかし、云々とわざんと、ありふりよかちく、天令  
の云々を書き御手をやどき、其のと改アラタメ其氣クモリが國クニからきて、とておれどは  
いわふく、此のよからうヨカラウと云うトコト、正理マツリ小かコトキこそ、正安マツヤス  
の、とくしみふくもぢぢう、

象曰、復即命、渝安貞不失也。сли금 친의 居キ  
トモク、私とちよんとありよ心祐ム、正亦もまゝ時々拘の  
矢がよ／＼とむだ、けいわせ、支の理屬きるともきねよ天

九五 訟元吉、此あらり可也。中正の徳ありて、吉位也。

あらハ弘キをよく正キルかつりのぞ、主シテを治ムルミ正道マサニチ行ハム  
大カイ小コトハもシラギで、玄クニ程ハシメ小シタハ弘ヒロシマのトあらバ、  
往アリありて伸シテと城シタハ弘ヒロシマ、  
と聽ヒツとも、主シテ年ハシメ小シタハ正マサニチ支シテそシテちシテ情シテゆシテをシテきシテ。

○象曰、訟、元吉、以中正也。孚惠心勿

○上九、或錠<sup>コロ</sup>之鞶<sup>ハシ</sup>帶<sup>ヒテ</sup>、終朝<sup>コトニニタマ</sup>三祝<sup>ミツジ</sup>之、<sup>ノ</sup>けあ<sup>ハシ</sup>、<sup>アシ</sup>上<sup>アシ</sup>、項上<sup>カク</sup>  
少<sup>ハシ</sup>、<sup>ハシ</sup>の經<sup>コトハシ</sup>、<sup>ハシ</sup>剛<sup>コラ</sup>強<sup>キワ</sup>小<sup>ハシ</sup>て、<sup>ハシ</sup>柔<sup>ハシ</sup>を極<sup>ハシ</sup>る<sup>ハシ</sup>とあらバ、禍<sup>ハラ</sup>、<sup>ハラ</sup>イ  
あらも、たどり<sup>ハシ</sup>く、<sup>ハシ</sup>かくとあまそ、<sup>ハシ</sup>夷<sup>ハシ</sup>文<sup>ハシ</sup>る<sup>ハシ</sup>とゆゑを、保<sup>ハシ</sup>  
ぐ<sup>ハシ</sup>き<sup>ハシ</sup>、あらも、げん<sup>ハシ</sup>おと情<sup>ハシ</sup>で、驕<sup>ハシ</sup>り<sup>ハシ</sup>く、利<sup>ハシ</sup>き<sup>ハシ</sup>り<sup>ハシ</sup>き<sup>ハシ</sup>摶<sup>ハシ</sup>  
え<sup>ハシ</sup>。

象曰、以訟受服、亦不足敬也。と云ハ、私のとて極ふ  
して、脇窄れ毫を文よも。敬きうかたりぞ、之をもぎま  
の事なり。けい翁ふくもく情毫を文うとも。之をより  
まくをむく、ましめておもり。

元龜曰、俊鷹逐免之課、と云ハ、齋の免と逐ぞ、  
物をわいつて、きびしきとあつてハ、天木のね遠ある。

枯木、拘小たゞふの情を用て有り、

○ト解曰、訟者争辨也、讼のとハあらそひをうどるぞ、天

左西小ゆき、木右東ゆ流るごく、下れ邊て人とさが

じからぎりそ、とくせつおを情人と堅まろ情までを

○ト彖曰、有争、廻息、若争のとあらハ、往もあもしき  
ぞ、情懷を辛あ少し、正あきて有り、

○十干詩断曰、頼有高人偏喜合、ちん小和音れバ、  
もうこびあらぞ、あーき、正向ともも解脱、くく、よによ  
らへ、と云萬利、

### ○天火同人

○繇曰、同于野亨、利涉大川、利君子貞、同  
人也、くよ同じる事あり、は卦上一ハ乾のモヤく、下モ離火あり、

火の性のやう、ちよ同ふまる事無く、因へと云ぞ、如比、下ト人と

因、ちる變、至寶ある心のとく、ナシモ私心のゆゑ、廣野の  
ききうり、つゝくにゆくよ、人と同じあまえ、大川のとく、難處

あまも、傍てもとむぞ、常人の同よまる事ハ、私心のゆゑ、ナシモ

もかり、因じあるハ、君子たちのたゞしきよあらざるのい持と爲  
あまを有り、

○彖曰、同人、柔得位得中而應于乾。曰、同人、け年の  
六二也。陰柔守中而應于乾、陰之位也。有孚惠心、勿

○初九、同人于門、无咎。ナニヨリラスルニヒニライイテス  
小畜、トカ門也。小畜、天下のへと同ふ。私の親ナシなれども、咎  
なつてよきを、けし物少く、遠近上下の厚アツシキてあく、志同  
し、徳を廣ヒロむる情まである。

○象曰、出門同人、又誰咎也。○  
○イテ、モンラナジンスヒト、ニタタレカトガメニ  
○もろハ、さるがふもろ處の道庶ハシナフして、もど、去程子、親疎シニツを失  
○うち更ハシナフく、偏頗ハニバのかどもる事あらうの、惜乎コトて、失かり、

○六二、同人于宗吝、けぬり如ハ、ナラヨ西矣、無往也

あき共、モ常畫のもの、因、ちる變ハ私のい様係て、偏す

モルふより、私の伏<sup>ヒヤウ</sup>と云ひ、けいわゆく、中の道よかひ、私のこ

どよ係<sup>カル</sup>まゆく、ちよ衆へと、用ゆまれば將<sup>シテ</sup>をもやう、

○象曰、同人于宗吝道也、と云ハ、私のあくニあるが如は、人の考<sup>スル</sup>るの道<sup>スル</sup>めらぎるを、けぬ<sup>リ</sup>の際<sup>スル</sup>ハ、舉湯のくまを

雨<sup>ハ</sup>るよ、陽<sup>ハ</sup>かり圓<sup>カク</sup>きの支<sup>ハ</sup>、私の枝<sup>ハ</sup>變<sup>ハ</sup>ありて、知<sup>ヒ</sup>を

りく、公道の度<sup>キ</sup>とむにせけ、持<sup>シ</sup>て、情<sup>セ</sup>て、もやう、

○九三、伏戎于莽升其高陵三歲不興、けぬり矣、

九三陽<sup>スル</sup>て、剛<sup>ハ</sup>の位<sup>スル</sup>よあくようち、中道<sup>スル</sup>不叶<sup>シ</sup>して、剛<sup>ハ</sup>強<sup>キ</sup>の  
ほく<sup>ハ</sup>よき、もよ依<sup>リ</sup>、私<sup>ハ</sup>無<sup>シ</sup>ゼざる支<sup>ハ</sup>を奪<sup>ハ</sup>て、因<sup>フ</sup>せんと至れ<sup>リ</sup>、  
義<sup>ハ</sup>しこざ<sup>ハ</sup>な<sup>リ</sup>、形<sup>ハ</sup>よ<sup>リ</sup>差<sup>ハ</sup>せざ<sup>リ</sup>て、時<sup>ハ</sup>さまづ<sup>リ</sup>わざ<sup>ハ</sup>、よくは<sup>シ</sup>こと

情<sup>ハ</sup>ぐ、剛<sup>ハ</sup>強<sup>キ</sup>ある<sup>ト</sup>あく、非<sup>ハ</sup>義<sup>ハ</sup>の行<sup>ハ</sup>なに移<sup>ハ</sup>、いね<sup>シテ</sup>て、もや、

○象曰、伏戎于莽敵剛也、三歲不興、安行也、と云は、我

剛<sup>ハ</sup>のつまむ<sup>ト</sup>、我<sup>ハ</sup>伏<sup>シ</sup>して、あき<sup>ム</sup>、程正<sup>シ</sup>うるがよ、三歲と

をこそ<sup>ト</sup>ど云ハ、下<sup>ト</sup>もう<sup>ト</sup>是<sup>ハ</sup>非<sup>ト</sup>全<sup>ハ</sup>な<sup>リ</sup>、支<sup>ハ</sup>財<sup>ハ</sup>を<sup>シ</sup>らむよ

て、もやう、

○九四、乘其墉弗克攻吉、けあら<sup>シ</sup>ヌ<sup>リ</sup>、剛<sup>モ</sup>つま<sup>ム</sup>、

からざして、志忘りる陰柔のりのよ、困わらもとまれ  
上うねるあるが、御が好全變あつても、自由あらざるを  
玄徳よ、其墉よ、衆ども、身のたしかりざるを知く、爲むとあるハ  
弗克攻して、はれにけんわゆく、モ邪を隠よして、義を思ふ  
とあく、あはなまとハ、めき變を候ぐ、や萬を改々變玉て、  
○象曰、衆其墉義弗克也、其吉則困而反則也、  
モ墉子衆、とくらをされど、萬子あくまで、克ざりすより、  
かくあるハ邪、あるといへ正、きよ猶きの義あり、左綱子、邪心  
のすよ、なまざるをも、困、などかうて、道よろち極よしてよ

きそげ、わゆく、相の争、奈となく、理す屬して止、ある  
の情ゆくをあり、

○九五、同人先號咷而後笑大師克相遇、けぬ、处ハ六二よ  
因せんとされど、中よ歎びて、うつ變ありを、抱し苦、義の直ある  
とされられバ、邪、ある变ハ、終小ハ正、不、克して、あく歎びて、  
うつ變ハ大、ある師、よ克、とく、志を遂、變あらむとけん  
わを以、徳人と同、ある变を、一人よ、私、さう變なに、居るよ、情  
て、あく。

○象曰、同人之先以中直也、大師相遇言相克也、と

云は陽爻ありよも主其敵剛強を厭そられを中ノヨミ  
至て理義の直ありよより其心よなきて後とはお遇  
王ありぞげしわ恃てよくけまを候あらバ初ハあきと  
あきとも道よあくらば候よとて支あらんと云第也、  
○上九 同人于郊无悔 はあく至知らへと私因せんと旅  
未ル矣ハね親ね与ちうものぞけ大トトありて意もむのが  
きがほどちよ候モ志と遂する極よあきども物もとふきど  
けしおとひ物よあこしまのなに極よあくもくじとつけ  
て身ととり守る支ゑて、吉あり、

○象曰、同人于郊、志殊得也、と云ハ、人よ固、志の、志  
をやどてに変ハキテ子厚て所厚て有りあるが故、私バ固、志、き人、  
を記がごく極よすり、志とバ遂てけきて、後悔もるとか  
まごけゆれざれ、親ニ因る變よ危とおき極よ情で毫也、  
○元龜曰、目魚從木之課 と云ハ、物かき變とんじく守り、  
人ニ順ドて、二人が金どく、而事あると候情ぐとあり、  
○卜解曰、同人者、与人同也、は情也、私の心りあして、人同、ま  
れバ、今も私あき、福あリて、物は因ぢる比義也、物の約、義  
ある變より、和同して、言をたゞ、金をめぐく、而事ある變

少て、利あらむとつあるあり、

○火賛曰、人於外地、文結情源、と云ハ、人と文と、外地  
といつても、文のゆにさへせば、通じるを以て、も、後ラバ、未ルとあり、  
ウヌふ付と、ソムトカキの事也、

○十干詩断曰、誰家女子、帶子、利禄頃知向此、  
未、ど云ハ、女子なぞが、種子さうと、あリキも、よく勝利報乃  
未、あリて、よほど、怨ラバ、ウヌ、よろびあリキよ、ウアキと  
ナシナシ、前市子ウヌ付、極せぐの情ゆく、よにあり、

### 坤鳥地

○繇曰、坤元亨、利牝馬、之貞、君子有攸往、先迷後得主、  
利西南得朋、東北喪朋、安貞吉、坤聖地、小かどを、地ニ  
第物を生、如き、元亨、とあリて、よに卦也、牝馬、公く、も、よ

あらがひ、主事、たゞ、爰、そこ、居うち、とく、に、わ、寡和、よ、して、よ、支、  
ざるか、天の龍、し、よの、支、兼て、主行、財、よ、たゞ、よ、の、情、よ、  
き、そ、西南得朋、と云ハ、も、つ、あ、き、る、い、よ、文、あ、リ、と、ハ、我、ため、よ、なら、  
ざり、そ、東北小喪、朋、と、云、我、が、る、い、と、も、が、ま、く、氣、き、あ、る、の、よ、文、

あまそ功あらむ、いわとあづくよ、夕特ミニテと原野ハシマよなきバ、安貞モリにて、  
吉ヨシのあり、

○彖曰、至哉坤元、萬物資生乃順承天、と云ハ乾カニと居リ、  
坤クニと臣スルとまれバ、坤ハ大臣シラタニの位スルを歛スル、  
去役スルよりもくともうの玉ミツタケを  
差スルて、主行スル時ハながきシテして功スルあるぞ、物モノと日ヒとを、品物モノの玉ミツタケ、  
事ハと、ふ諸シテ亨スルことハと、下スルかあきマサニ、下スルかマサニ、功スルあるまスル、  
て、亨スル遂シテ支スル、主行スル事ハと、原野ハシマと原野ハシマ、  
事ハて、ソノ勅スルをスル、  
僕スコヤカす行スル、道シテ西シテすスル、ソノをスルあきマサニの、いわあきバ、終スル有スル慶ハシマ、无スル、  
疆キハラのあり、

○象曰、地勢坤、君子以厚德載物、と云ハ地のかくち厚、  
小も至、事物モノとのせてても、必ずきよなきシテる變ハシマりきハシマ、君子其ハシマ徳ハシマとあつぶスルて、  
庶民シテを富スルても、衆シテよたゞシテる變ハシマりきハシマ、  
めぐみく、厚シテ徳ハシマと、きあむのいわふくシテ、  
きシテなり、

○初六、履霜堅冰至、はぬ、效シテ陰ハシマの生スルむぬハシマれば、  
きあれた、長シテくシテ八、堅冰ハシマとあらざシテ、  
さシテぬ、少シテのあシテきシテ、  
わシテをそれ將シテには、  
わシテ、

○象曰、履霜堅冰、陰始凝也、剝致其道至堅冰也、  
ハニヌテコリ、シタツテイタスハゾ、ミナツ、イタル、カタキ、ニニ

○は陰のゆく凝じく少の支をこしめよ、あらたむかとふ  
して、も遁よ、馴致とあすが、而小幽、堅冰、小弱、がどんぞ、是井  
井の木の、も廻りうちどり、水すすむ支へ遠しといひ、其程あく雲冰  
小弱の象や、物のまこと、始ふと、情にわあまをもせ、

○六二、直方大、不習无不利。はあら、处ち、栗形ゆく、四  
小弱、坤のまつり、小弱、も、傳る、支内、の、真よ、外義、市小  
して、たすく、なむ、が、去程、直方大の徳を、まみじる、変  
き候び、一、利あらざる、支なき、けしわゆく、自徳の徳候、  
行、剛強の、もくらき、極きゆるの、時、よそをふり、

○象曰、六二之動、直以方也、不習无不利地道光也、と  
云ハ、六二の動、と、ちようけて、動すを、正直す、ても、もんねだしき  
と、ちあうて、ちよ依、其直方の、動する、變す、して、極、なき、けし  
わゆく、地道の、光顯と、ちよあらうと、極すして、其功成體を、變  
り候る、利あらん、支を、情あまて、よいかり、

○六三、含章可貞或從王事、无成有終、けぬ、处ち、下の  
上、す、形、く、位、候得ら、もの、臣下の道ハ、モ、章の、夷あまく、あく  
かくして、若あきバ、よて、下の、夷、せあむ、ねむ、ねあらバ、よて、下の  
人、を、正ひ、君、まく、支り、下て、臣下の、事、能ひ、なる、道を、

てよれり、吉祥より事よりがひ、無功あり若ほるどく、  
其經守るにわゆく也や。

○象曰、含章可貞、以時發也。或從王事、知光大也。占之、  
臣として、リある道、王功の若あつまし、含あらはゞぐら極す情で、  
時を見合て、審まる處、おあきバ、時と失はずしてよし。未嘗  
の人ハ、少しき、おあきバ、人のあらざりんまともれて、穀食  
食もせあきよらう。物のあきさまむぢりまともからざりぞ、よく情の  
里そよにあり。

○六四、括囊、无咎。无譽。是善也。吉。勿用。往。勿用。往。勿用。往。  
相得の善ふき難、トト辱とくろの時モ如復たゞし。勿用。往。  
あらうきうだいある地なるぞ、吉祥より事よりがひ、無功あり若  
處の口を括そく、至知とあり。また、私情あらば、譽あくとも、  
咎あくとも、往。勿用。往。勿用。往。

○象曰、括囊、无咎。慎不害也。と云ハ、至惜あると、囊の口、  
括そくふかして、害あらざるを、けいおざい好美すも、好美すも、あこ  
ざり極す時、よし。往。勿用。往。

○六五、黄裳元吉。はあらはく。坤占。臣の遠たまとい。往。  
立五君子の位あり、乾の九爻の君子、配する時ハ、大臣の位とす。

○象曰、萬<sup>ハシナ</sup>農<sup>ノミ</sup>元吉<sup>ハシナ</sup>、文在中也。ともハ<sup>ハシナ</sup>財<sup>カニ</sup>の徳<sup>カニ</sup>也。又<sup>モ</sup>も<sup>モ</sup>變<sup>カニ</sup>あり<sup>モ</sup>、<sup>モ</sup>其<sup>カニ</sup>の義<sup>カニ</sup>也。即<sup>モト</sup>も<sup>モ</sup>有<sup>リ</sup>り<sup>モ</sup>、<sup>モ</sup>其<sup>カニ</sup>の元<sup>ハシナ</sup>も<sup>モ</sup>有<sup>リ</sup>。

の情あまでをじるにあらずかと、強きなり。

○上六、龍戰于野、其血玄黃、雷雨作、項上<sub>トシタ</sub>其<sub>ヒ</sub>の  
極<sub>ヨリ</sub>也。陰ハ陽小ち、がふもひき其<sub>ヒ</sub>陰聲<sub>ニ</sub>也。極<sub>ヨリ</sub>也。陽と  
あり<sub>ミ</sub>ひて、きまうゆ、羈<sub>ミカフ</sub>と云<sub>シ</sub>け。お<sub>カ</sub>く、人<sub>ヒト</sub>をも<sub>シ</sub>けりと  
なき極<sub>ヨリ</sub>也。一<sub>シテ</sub>主<sub>シ</sub>む。

○象曰、龍戰于野、其道窮也。○云は、陰盤アトト、火ヒすぢり、陽と  
あくをふと、あきてハモ道カニ正マサニありて、あーきど、はいおと、陰の盤  
と、火ヒよあくせて、あーきのあき、バシ、アタかよ、傷ナガラり、まカそ、あーきと  
と、情シテど、まカりあり。

用六、利永貞一、は用ひハ、ニ陰陽夷と、ニ陽とあるモ、  
陰の性を、柔弱にして、陽の性ハ、剛健であるモ、陰を柔弱あるモ、  
國守らむをり、永貞無事も、ならざるモ、故よ、は爻を以る人

○象曰、用六、永貞、以大終也。と云は、用六を、永貞の終へ、

ちあるとひ、永貞と云や、山をちゆりの陰安じて陽とゆる經よ、  
旌シラリをちよまと云て、はいおをく情、貞固テイコは守マサニとならざれば、  
永く旌シラリをちよめならぬぞ、からがゆよ、用六の通占、旌シラ望セイダ大、  
永貞なきバ、利ある變あらず、吉ありと云義や、

○元龜曰、生載萬物之謀、と云ハ地の萬物をのみる也、  
徳義あつきよより、下ト上ト和合して、君倡臣和シナウて、君  
臣和融ヨウウあるの情少く吉や、

○卜解曰、坤者順也、象地之道、柔順博厚万物滋、と云ハ、  
地の厚カタチき、あがひ、あつき、徳として、万物の生ぎるごく情焉で、  
常極カタチり静小安むもの爲カタチり、事の先倡ある支卦シナ、貞  
正のたぐ安よ、此の爲カタチり、小安く吉かり、

○卜象曰、坤能厚載、德无窮、と云ハ、坤の卦、あつき徳として、  
拘クルす載り、ごく、情あきバ、在リ、より服アフするをあらむ、御カバ、时の重、  
事あまく、家内繁榮カタチあらんと云義や、

○卜彖曰、坤象爲地、博厚无窮、と云ハ、坤の象ハ地也、博  
厚のあつき、徳あるて、キヨミ多まざり、先きた、地の天よ、さにだら  
そぢにがごく、拘クルの拘カタチり、拘カタチりに拘カタチり、靜カタチよ、モ道を守マサニ、喜  
慶カタチあらむと云義や、

○十干詩断曰、施爲須謹不宜輕。と云ハ行施と極強情で、  
かづきあき核よあまてハもやからむ、支ふまむも、銀難よて、  
あ屈うき核よあまて、みづむらかくよあもむうざるの情よてを及  
○評曰、乃順成天萬物資生、と云て、物ど物种がほくに  
小せむ、天の道よかかひ、性路よみて、情あらば、事成物も  
支あまて、吉たゞむと云矣也。

○地雷復

○繇曰、復亨出入无疾、朋来无咎、反復其道、七日未  
復、利有攸往、復豐かくとよむぞ、卦陽來復少て、  
陰のあき更盡く、陽の吉ふくら焉也、初爻苦竭て、去  
小畜ぬり、事本より難生多るが如し、朋來と云ハ、陽氣の漸よ  
ぬまごく、なまけあり化美也、此心わづく、か入とて、こもりたれ  
倒うよ、往ぐよむばかり、

○彖曰、復亨剛反動而以順行、是以出入无疾、と云ハ、  
積陰の下小一陽生じて、性路を反動するが如く、か入とて、からむ

主あるじて、皆あにそはれやうと、下勤く、上服ふ、支ハ天の  
運行ウニカラ小叶カサて、君子陽剛の道次第シテ、長ずる時モリ、往々小  
利ありて、よりぞば理リゆゆく、天地の氣物キモノが、生ずるごく小  
者ジンに毛アイの心ハコを長ずる慎マジミまで、之にかゝり、

○象曰、雷在地中ライアルハチ チクニフクニセシ、先王ワラモツテ以シ至日ジツノトギテ、開ハタケル、闢ハタケル、商旅ミナリヨ不行ハヤキ、后アフミ不省ハララ方ハタハタ、と云は、處シテの地ジけシテ、陽ヨウのちドめて、復ハシメルる  
の時ハタハタ、先王天道アマミタノヒと、陽ヨウのちドめて、生ハタハタりムあハタハタる、

難ハシキふ是ハシキと書ハシキて、閑ハシキと開ハタケルて、商旅ミナリヨをゆくハシキめを、君ハシキたゞ人ハシキうして、尸ハシキ方ハタハタ、廻ハタケル者ハタケルともなハシキざハシキて、至ハシキの日ハシキは、至ハシキ微陽ハシキと

あすけハシキ、罔ハシキちハシキ事ハシキがちハシキと、仄ハシキぐのハシキと、靜ハシキよハシキあむハシキる、いと用ハシキて、陽道ハシキ罔ハシキかハシキいたまハシキ、あとハシキいなハシキ、たきハシキ支ハシキあハシキまハシキ、云ハシキくハシキて、陰陽ハシキの定有ハシキと、まハシキち、陽氣ハシキ傍ハシキ長ハシキて、事ハシキとなハシキ、狀ハシキ小ハシキて、主ハシキとハシキなり。

○初九、不遠ハシキ覆ハシキ无ハシキ祇ハシキ悔ハシキ、元吉ハシキ、はあハシキ主ハシキ不ハシキ、一陽ハシキふ生ハシキじて、

君子ハシキたハシキらハシキ、善ハシキ小ハシキからハシキの道ハシキと、徳ハシキを、約ハシキの失ハシキあるハシキとも、遠ハシキらハシキどハシキして、後ハシキ小ハシキより、後ハシキ悔ハシキも、變ハシキわハシキて、ちハシキ少ハシキ吉ハシキなるハシキぞ、けんハシキおハシキづハシキ、あハシキきハシキまハシキすハシキくハシキ、もハシキめハシキよ、迷ハシキよ、ありハシキためて、後ハシキよ、悔ハシキえハシキあハシキきハシキ、居ハシキよ、情ハシキどハシキをハシキありハシキ、

○象曰、不遠之復、以脩身也。○不遠は、よからざる變ハ速  
小亨<sup>トヨヒ</sup>、○王改く、○而身を脩は、君子のたつとを知也。○則然  
以<sup>テ</sup>、○詮<sup>シ</sup>も、○而道<sup>アシ</sup>、○乎<sup>アシ</sup>、○变<sup>アシ</sup>、○バ<sup>シ</sup>、○の前<sup>キサシ</sup>  
而<sup>カハル</sup>、○とくとく、○有<sup>セイサツ</sup>、○人欲<sup>サリ</sup>、○天理<sup>サリ</sup>、○小復<sup>カハル</sup>、  
して、○人欲<sup>サリ</sup>、○天理<sup>サリ</sup>、○小復<sup>カハル</sup>、○とれハ後悔<sup>モレ</sup>、○と往<sup>モ</sup>、○往<sup>モ</sup>、  
ね哉<sup>シカク</sup>、○悔<sup>モ</sup>、○往<sup>モ</sup>、○往<sup>モ</sup>。

○六二、休復吉、○けあひ<sup>トヨヒ</sup>、○處<sup>トヨヒ</sup>、○陰柔<sup>トヨヒ</sup>中て、○中<sup>トヨヒ</sup>、○柔<sup>トヨヒ</sup>、  
ありて、○其志<sup>キミ</sup>、○陽剛<sup>カハル</sup>、○あ<sup>ト</sup>、○古<sup>ト</sup>、○復<sup>ト</sup>、○其<sup>ト</sup>、○休<sup>ト</sup>、  
き<sup>ト</sup>、○け<sup>ト</sup>、○物<sup>ト</sup>、○休<sup>ト</sup>、○も<sup>ト</sup>、○小亨<sup>トヨヒ</sup>、○も<sup>ト</sup>、○將<sup>ト</sup>、○少<sup>ト</sup>、○吉<sup>ト</sup>、

○象曰、休復<sup>トヨヒ</sup>、○之吉<sup>トヨヒ</sup>、○以<sup>テ</sup>下<sup>トヨヒ</sup>、○仁<sup>トヨヒ</sup>也、○云<sup>ハ</sup>、○卦<sup>トヨヒ</sup>、○一陽<sup>トヨヒ</sup>、○二陰<sup>トヨヒ</sup>、  
主<sup>トヨヒ</sup>、○仁<sup>トヨヒ</sup>者<sup>トヨヒ</sup>、○小亨<sup>トヨヒ</sup>、○迎<sup>トヨヒ</sup>、○與<sup>トヨヒ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>、  
して、○主<sup>トヨヒ</sup>、○云<sup>ハ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>、  
位<sup>トヨヒ</sup>、○四<sup>トヨヒ</sup>、○五<sup>トヨヒ</sup>、○小<sup>トヨヒ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>、○無<sup>トヨヒ</sup>、○小<sup>トヨヒ</sup>、  
至<sup>トヨヒ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>。

○六三、頻復<sup>シキリニフンス</sup>、○厲无咎<sup>マヤラケレハナシ</sup>、○けあひ<sup>トヨヒ</sup>、○處<sup>トヨヒ</sup>、  
而<sup>カハル</sup>、○陽<sup>トヨヒ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>、○勤<sup>トヨヒ</sup>、○極<sup>トヨヒ</sup>、○而<sup>カハル</sup>、  
して、○躁<sup>トヨガ</sup>、○急<sup>トヨガ</sup>、○勤<sup>トヨガ</sup>、○極<sup>トヨガ</sup>、○而<sup>カハル</sup>、  
して、○不<sup>トヨ</sup>、○若<sup>トヨ</sup>、○小<sup>トヨ</sup>、○移<sup>トヨ</sup>、○底<sup>トヨ</sup>、○而<sup>カハル</sup>、  
之<sup>トヨ</sup>、○危<sup>トヨ</sup>、○事<sup>トヨ</sup>、○有<sup>トヨ</sup>、○危<sup>トヨ</sup>、○事<sup>トヨ</sup>、○有<sup>トヨ</sup>、

○象曰、頻復<sup>リ</sup>、○之厲<sup>マヤラ</sup>、○義无咎<sup>マヤラケレハナシ</sup>、○けあひ<sup>トヨヒ</sup>、○處<sup>トヨヒ</sup>、  
而<sup>カハル</sup>、○陽<sup>トヨヒ</sup>、○休<sup>トヨヒ</sup>、○勤<sup>トヨヒ</sup>、○極<sup>トヨヒ</sup>、○而<sup>カハル</sup>、  
して、○不<sup>トヨ</sup>、○若<sup>トヨ</sup>、○小<sup>トヨ</sup>、○移<sup>トヨ</sup>、○底<sup>トヨ</sup>、○而<sup>カハル</sup>、  
之<sup>トヨ</sup>、○危<sup>トヨ</sup>、○事<sup>トヨ</sup>、○有<sup>トヨ</sup>、○危<sup>トヨ</sup>、○事<sup>トヨ</sup>、○有<sup>トヨ</sup>、

さとどまらきして、もやづきがじし、むしを、あきをあらためて、  
若木立ぬり、も過跡浦アマナフにあつたよ、若木ねく登が、とくけ  
いわどひ若木復て、因ツ守ムカシの、情少くよむなり、  
六四、中行獨復ミトリフクス、はぬハヌ處無シムラ、群陰ムダウの中ノ小あきを、因ツ軼ツクニのあ  
しきちの小ちコトガひききて、西魚セイヨウの初ハの小魚コトガるハ、獨ハシタ若木、  
あくふのわるひよ、中行ミトリ、獨復ハシタフクスと云ハシタ、いわを知ル  
て、あきの、けよおとく、あとも、ましく、我ハなまけハシタとある、  
正義マサニキの、もとハシタむ、いわゆ少ハシタて吉也、

○衆曰、中行獨、後以從道也。といふは、國勢の中よ、四  
獨、陽剛の君子よ、わがぢるハ、若道よ、うそぞうすの、いはん  
おふて、よく、やまとく、ご、おも、せ、用いて、を、あり。

○六五、敦復无悔、ハナツニ、フクスルニ、シモ。夷之妻を中止の徳され、君の位なる小  
より、若よ復すりよ、めつきとひく、物更なれど、陽の復  
して、微る時よ、陰柔のもととぞ、もと復すあるハ、シモよなき  
けりき、復すよありそ、けしわゆふく、苦行を因して、主徳乃  
が能あらずよ、情ぐさむかう、

○象曰、哀<sup>シ</sup>復<sup>スルニ</sup>无<sup>シ</sup>悔<sup>シ</sup>中<sup>ヒ</sup>以<sup>チ</sup>自考<sup>モツテ</sup>也<sup>ニヅカラ</sup>、<sup>ナセバナリ</sup>とは、中道をなまむ  
がよ、悔<sup>シ</sup>とたまき<sup>シ</sup>ぞ、往<sup>ハ</sup>跡<sup>スル</sup>すもの、志<sup>シ</sup>とあはふ<sup>シ</sup>て、中<sup>ノ</sup>の体<sup>ト</sup>

少はと、天貨の種よもむりたるごく、情あつて吉也。

○上六、迷復山有災眚。用行師。終有大敗。以其國君  
山至于十年不克征。けあひを處し陰原。才小く、復ある

の終すあつより、復あるよ迷て、山事を知ぬべ、吉程よ  
えく情ざれハ天災かもう來、移小庵まちあひて、吉よ復  
一が、ト、情をよこして、過あくバ改ル小勇ハ物少て、吉あり。

○象曰、迷復之山反君道也。どうより復する時は、道よ叶  
ああきども、主復すゝよ迷、度ゑてハ道よ肖てあきぞん  
君のよよありて衆伐治る變ハ天下の善よ、ちこづきて變  
そは、わざあき事あ、バ微かる初よ、焉くあらたむる  
厚うよ、情ありてよむなり。

○元龜曰、淘沙見金之課、どうはあき變をすと、た

ふかほば、主紀半とこめの事や、げいわやく、情も(きと云)

○卜解曰、反覆能洞内悦外、順出入无災。どうは、物の進

がく、たちもとどり事あつとも、内いもつこぢて、空を  
順路よなきバ、主紀よ後、財用をも、また空をあくもと云也。

○ト彖曰、公訟有理、方免山佛。どうは、讼、あらば、もと  
事をたゞして主紀、浮雲蕪庭にて、日月錦光とく、盡

時ハのハおハりくハのハおハひハなりハキハ、あハむハとハあハめハ也ハ、

○地澤臨

○繇リ曰ハ、臨元亨利貞、至于八月有凶、臨ハのハぞハむハとハよ  
もハきハ、二陽長ドじて、豐ナリハ小ムふハ時ハふレどハ、君子ハ其ナ豊ナリハ、  
事ハ小シくハ、遯ハ王ハ往ハ、永久をハめハかりトて、シ往ハけハわハ少シて、  
天ナ地ナのハ事ハしハ、二陽長ドじて、豐ナリハとリづモ、至シ于ハ八月ハ、有ハ凶ハ、  
と云ハハ、陽ハ衰ドじて、陰ハ又ハ生ズるハがハありハ、凡ハ物ハのハ豐ナリハ小ムほシる  
とシあク、あキをハ高クしシまシかシのハ時ハ少シて、とシあク、

○彖ハ曰ハ、臨剛浸而長說而順、剛中而應、と云ハハ卦上ハハ、  
坤ハのハ柔ハ以ハ下ハて、下ハ先ハ說ハのハもハうシびハりハ、二陽アリハ小シ長ドじて、

解セジこ小すしもよ、私慾の厚シラフきとれば踏ハタフてよにせ  
りとくシテ西ニシのたゞ教道キテとふ小魚コイすながシナガたまけあるの  
事モノや、げいシテおシテ、剛カタのたゞ教德キテクと、厚シラフきありハ天アマニの  
道ミサカ小シも、人ヒト小シ臨ミタマシ事モノのモも变シテても、ちよす事モノ  
かシテて、有アリ。

○象曰、澤上有地ツケノウヘニアルハテ、臨君子リニシニモツテ、教思无窮ヨシハシナシキウノク、容保民元疆ヨウボミンメニシナシキヤク。  
云シテハ、君子シロジは象カバとんくトノク、してるシテルより小臨ミタマシで、もシテを教シテ、  
なすシテの退タク局ヨク、衆人シテルヒトを係シテルじ、奸密キヨヨラするシテの度ヒロクあ  
らむ事モノと、临ミタマシて、有アリ。

○初九、咸臨カムニラム、貞吉テイニツキツ、はあハアとシテ不ハシ、初ハシメて、正ハシメて、正ハシメて得ハシメて、  
上六カミロクの大臣チントウと、咸氣カムキすシテとありシテ、ち少シラフ、而シテ道徳カタクの志シテ行ハシメ、事ハシメゆくシテ、占ハシメためハシメ、用ハシメひらまシテくシテたシテ、げいシテおシテ、君シテルヒトの、ヨキ道シテルシキ長シテルヒロクすシテ仰ハシメみシテ、殊シテ貞困カムニシテとかシテ、たゞシテ生ハシメ、  
ありシテ、临ミタマシとシテ有アリ。

○象曰、咸臨カムニラム、貞吉シトドコロシヨコナハシメ、志行正也シテルヒトハシメハシメ、  
正ハシメとシテり、上シテよ從ハシメふシテ、群陰シラフヒツのシテわシテりシテ、退タクてシテ、  
けいシテわシテくシテ、至シテ志シテ、剛カタよシテりシテ變シテくシテ、善シテ追シテ、正ハシメとシテ行ハシメ、  
の咸カム、臨ミタマシ、重シテうシテ、临ミタマシて、有アリ。

○九二、咸臨吉无不利、蹇<sup>トモ</sup>而<sup>シテ</sup>ニ陽長じて渙<sup>ハラハラ</sup>

なり財<sup>トモ</sup>上<sup>シテ</sup>位の君を感<sup>ト</sup>して、其文<sup>アキ</sup>を、安か<sup>ト</sup>、モ志<sup>シ</sup>、  
行<sup>フ</sup>事<sup>ハ</sup>遠<sup>ム</sup>と<sup>シ</sup>、行<sup>ハ</sup>わふて、弥<sup>ヒ</sup>と<sup>シ</sup>感<sup>ト</sup>、勤<sup>メ</sup>厚<sup>シ</sup>、  
情<sup>アリ</sup>て、利<sup>アラギ</sup>と<sup>シ</sup>、ふと<sup>ナリ</sup>して<sup>シテ</sup>、

○象曰、咸臨吉<sup>元亨</sup>、不利<sup>未</sup>順<sup>命</sup>也、と云は、剛<sup>健</sup>の<sup>つよ</sup>にと  
長<sup>ず</sup>れバ、人<sup>と</sup>も<sup>の</sup>、<sup>き</sup>ゆ<sup>ト</sup>拘<sup>シ</sup>變<sup>アリ</sup>て、<sup>ハ</sup>臣<sup>ト</sup>して、<sup>君</sup>の  
令<sup>ム</sup>、<sup>ち</sup>が<sup>カ</sup>き<sup>ル</sup>が<sup>ビ</sup>し、<sup>ハ</sup>わ<sup>カ</sup>く、<sup>ト</sup>す<sup>モ</sup>う<sup>シ</sup>、<sup>ト</sup>あ<sup>リ</sup>、  
道<sup>小</sup>あらざん<sup>バ</sup>、<sup>ハ</sup>き<sup>る</sup>の、<sup>情</sup>ふく<sup>ム</sup>と<sup>シ</sup>。

○六三、革<sup>ハアシシ</sup>臨<sup>ソゾム</sup>无攸<sup>トコロ</sup>利<sup>リスル</sup>、既<sup>ス</sup>憂<sup>ラバコロ</sup>之<sup>ミ</sup>无咎<sup>トガ</sup>、<sup>け</sup>あ<sup>リ</sup>处<sup>ミ</sup>、下<sup>セ</sup>の上<sup>セ</sup>

小<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>、人<sup>の</sup>も<sup>の</sup>の、<sup>あ</sup>れ<sup>ど</sup>も<sup>陰</sup>柔<sup>シ</sup>か<sup>く</sup>、<sup>レ</sup>あ<sup>ら</sup>ぎ、<sup>革</sup>  
脱<sup>エツ</sup>の、<sup>も</sup>ろ<sup>び</sup>と<sup>シ</sup>、<sup>ト</sup>す<sup>モ</sup>陰<sup>柔</sup>小<sup>さ</sup>く、<sup>レ</sup>強<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>、<sup>アヒ</sup>利<sup>キ</sup>あ  
ト<sup>モ</sup>か<sup>く</sup>、<sup>ム</sup>ニ陽<sup>の</sup>上<sup>ト</sup>居<sup>ク</sup>、下<sup>セ</sup>のニ陽<sup>、</sup>も<sup>ミ</sup>の、<sup>が</sup>ら<sup>も</sup>と<sup>ス</sup>  
ふ<sup>ホ</sup>う<sup>リ</sup>、<sup>ア</sup>ド<sup>ガ</sup>と<sup>シ</sup>、<sup>シ</sup>變<sup>ア</sup>、<sup>ム</sup>も<sup>チ</sup>程<sup>シ</sup>、<sup>危</sup>懼<sup>シ</sup>の、<sup>モ</sup>それ<sup>モ</sup>、  
要<sup>リ</sup>、<sup>レ</sup>ぐ<sup>る</sup>、<sup>レ</sup>わ<sup>少</sup>て、邪<sup>アラ</sup>、<sup>モ</sup>う<sup>シ</sup>、<sup>ト</sup>び<sup>シ</sup>に<sup>シ</sup>、<sup>レ</sup>情<sup>シ</sup>、<sup>ト</sup>シ<sup>カ</sup>、  
○象曰、革<sup>ハアシシ</sup>臨<sup>ソゾム</sup>位<sup>ハサバシ</sup>不<sup>當</sup>也、既<sup>ス</sup>憂<sup>ラバコロ</sup>之<sup>ミ</sup>咎<sup>トガ</sup>不<sup>長</sup>也、と云ハ、<sup>陰</sup>柔<sup>ホ</sup>  
の、<sup>ト</sup>も<sup>と</sup>、<sup>ト</sup>の、<sup>ト</sup>も<sup>ある</sup>、<sup>ハ</sup>停<sup>ス</sup>あ<sup>ら</sup>ぎ<sup>る</sup>、<sup>モ</sup>ち<sup>ま</sup>す<sup>り</sup>、<sup>モ</sup>ま<sup>と</sup>、  
も<sup>く</sup>あ<sup>れ</sup>勉<sup>メ</sup>て、<sup>ト</sup>あ<sup>ら</sup>ぎ<sup>る</sup>、<sup>ハ</sup>改<sup>メ</sup>た<sup>ト</sup>ま<sup>あ</sup>、<sup>情</sup>玉<sup>テ</sup>て、<sup>シ</sup>。

○六四、至<sup>イタツテノ</sup>臨<sup>ソゾム</sup>无咎<sup>トガ</sup>、<sup>け</sup>あ<sup>リ</sup>處<sup>ミ</sup>、下<sup>セ</sup>の、<sup>ト</sup>よ<sup>ア</sup>リ<sup>て</sup>、<sup>シ</sup>君<sup>ト</sup>近<sup>キ</sup>

位乎在リ、主位とせらる處うよナリて主位、けりわゆくも意  
すりものよんとをありてある事なりともよりはのよ位考  
の時少く有り。

○象曰、至臨无咎、位當也。と云は、主小運き、位乎至て、  
主位とせらる處うゆうて主位、陰乘とふく、陰の位乎考ハ  
其正爻とゆるの象也。下初爻の陽剛小、お急ぎハ、喩才哉  
赳々、なすけと未の義あり、けりわよ、信ありて主位あり。  
○六五、知臨大君之宣吉。はあ、而ハ、柔順の、屈うらぎ、あ  
らぬとい、主位乎あるて、剛中の位卦急じて、主位乎は  
かきあらざり、ふ劣して少る変をゆうじて、主位、知臨、と云  
そ、けりわと知く、賢もむすのよ無じて、主方と未用る  
屈う小情あると、ち萬の宣と云也。

○象曰、大君之宜、行中之謂也。と云ハ、君臣と、道の合  
事は、上下中道の徳と、行よまれ、去程よ、君中道あるも、  
と圓中の臣小位と、為するハ、大君の臣也。けりわと、く  
情ありバ、知さん、下ト臨の功を創て、主位あり。

○上六、敦臨吉无咎。はあ、而、主位考の、臨の法、ありふたり、降  
玉あつき、て、我小意せざるをさむ、志と、臨の法、ありふたり、降

是をももして卑ハタキ小無ハタチドハタシてハタシよもと云てハタシ往ハタシの原ハタシともハタシまつちハタシあハタシまハタシ頂ハタシとハタシあハタシなハタシ身ハタシをハタシさハタシ居ハタシ小情ハタシとハタシ小枝ハタシ、物ハタシおハタシ意ハタシせざるハタシのハタシ身ハタシもハタシもハタシあハタシふ、  
いわゆハタシてハタシはハタシあり、

○象曰、敦臨ハタシ之吉、志在内也。と云は下ハタシの二陽時ハタシをハタシく  
すり、進ハタシふより、モニ陽とハタシからハタシをハタシめぐらハタシ志  
在内ハタシと云ハタシけいわハタシとハタシはハタシのハタシをハタシも剛陽ハタシのハタシ小  
あハタシふハタシ心ハタシをハタシ厚ハタシしてハタシはハタシあり、

○元龜曰、鳳入雞群ハタシ之課ハタシ、と云は鳳の傳象ハタシあるを云、  
我身ハタシとハタシあハタシばハタシ、凡ハタシ身ハタシ多くハタシバハタシ、いわゆハタシてハタシはハタシ、  
獨ハタシバハタシ不道ハタシよ叶ハタシてハタシきや、

○卜解曰、臨者大也、以大臨ハタシ小、と云は上ハタシサハタシあハタシとハタシはハタシ、  
をハタシけ、肉ハタシもハタシこハタシ一全ハタシ、卯ハタシをハタシ距ハタシ小情ハタシ事ハタシあハタシバ、  
もハタシじハタシどハタシむとハタシふ義ハタシ也、

○ト象曰、君子臨ハタシ時終有財、と云ハ財事ハタシの身ハタシ事ハタシ  
あハタシも、あるる備ハタシあハタシバ、疑ハタシをハタシあハタシも、情ハタシあハタシて  
人ハタシをハタシうハタシあハタシ、あハタシも、もハタシ身ハタシをハタシて、  
精ハタシをハタシ隔ハタシのハタシいわゆハタシてハタシはハタシあり、

○十千詩断曰、妄行羅<sub>ミダリニユイテハアミス</sub>、陷井<sub>ヤンセイニトロク</sub>、輕举<sub>アヤレバ</sub>入天<sub>イルテン</sub>、ど云は、進退<sub>アシテ</sub>自<sub>リ</sub>生<sub>ナリ</sub>危<sub>ガ</sub>る<sub>ゴ</sub>と<sub>ク</sub>、也<sub>ハ</sub>よけ<sub>カ</sub>さ<sub>ば</sub>、輕<sub>ハロツ</sub>なき<sub>ト</sub>ぐら<sub>ホモ</sub>、時<sub>モ</sub>節<sub>モ</sub>候<sub>ム</sub>、首<sub>モ</sub>よそ<sub>ト</sub>す<sub>カ</sub>變<sub>マ</sub>あら<sub>バ</sub>、身<sub>モ</sub>あら<sub>バ</sub>、ゆ<sub>ヒ</sub>こ<sub>う</sub>り<sub>タ</sub>事<sub>モ</sub>を<sub>シ</sub>ゆ<sub>カ</sub>く<sub>ム</sub>も<sub>ト</sub>云<sub>フ</sub>矣<sub>ヤ</sub>、

品地天參

○彖曰、泰小往大來、吉。亨則是天地之運、而萬物通也。上下交而其志同也。云何天地陰陽之氣、交而無所極乎。

うるまごとく、天正よりひへ通じて、其志回りき事  
けん、支度す。考すよき道す。ちみ少人の御とき及  
ば、おうじけ、内人使は行。かまは祭奉れよしきば奉の

い持よかひて、おがのゆゆり、

○象曰、天地文奉后以財成、天地道輔相天地之宣。左右  
民、こしは天子。臣人は天地通奉の事と我身よ

行。下下を重ねて、衆人せたをくわせ、常の人  
がうそも、せつめのりを過たらば制し、ふ及とを

きふらへ、凡衆人のみ、仰むしておわり、

○初九、拔茅茹以箕、彞征吉。

けり。是れ、剛の才にて、  
リよけりのぞ、を忘へよ。もととある事、至難と連  
吉凶因ノ、一、を變ゆ、てよきぞ、せつめよ、獨立、  
とあふて、明卦の助よ、て其卦と、志と回りて、

力、を含みゆ。か、往々りておわり、

○象曰、拔茅茹、征吉。志在外也。こしは、時奉ひよ舜

賢のよなりのと、志と同じて、よむとあると、茅

の根のよろづと、おもろがとおき、せつめよ、よけりのと、志  
を、おもと、おもと、引ひきて、およめの様よを、おもと、

○九二包荒用馮河不遐遺明亡得尚于中行其往吉  
处也陽剛柔れ也柔往よりトサヰシヨリトスルトモ  
小應ありみより焉也トナヘテ徳と同トあるこ吉往ト上  
内ナリヨリ往セリれて參神がまの事ニ泰あまバ人其妻  
よりては度失了れて、其妻と失うるを能ばん其夫  
性て、朋との私情立さるはく、中止よからずと云ふ  
と云體なり。

○象曰、包荒得尚于中行以光大也。とみは中行の徳を  
行ひ、徳を大いに、行ひてうるまくば、もと道がゆく  
天下が熙きるものも、もとよりして、内かくんと外かく  
りあり。

沙持と情を重ねたり

よもやがやむゆきみ情あまし其事は何んて福氣  
のよもやんとえまつり

○象曰、无往不復、天地際也。ときは天地の文うるゝ陽  
主下の日をバ陰を上すからて陰氣と外バ陽を  
リよ復どく、素のけらるふとも、君のあらゆるとも、考  
るべ定めきりのせ、吉程か、天地の道を悟る者  
のみ、喜せざるすよ、心約あまてもあらう、

○六四、翩々不富、其隣不戒以孚。比物の事は泰の  
せゆきて、陰氣をふとよむ。かず志りよ、くらんと  
あらざ、陰をリよ、何よりあきども、とよむ、ハ、寔終失  
事行くむかと、志を廻り、うしんとあらハ戒され

乎、も、旅、せんむと、情をあらう、  
○象曰、翩々不富、皆失實也。不戒以孚、中心願也。云は  
富と、す、波りて、隣をうごぶとは、とよむ、害  
神ふ失、極め、情ゆりて、あることと、中を失ふことは、大體  
みかかと云ふと、心約定め、が、きと、行くべ、必ず立  
かつるやうよ、情をあらう、

○六五、帝乙歸妹以祉元吉。皆行ろりやは、陰氣を  
六五、帝乙歸妹以祉元吉。皆行ろりやは、陰氣を

きくも、馬鹿マフのうりて、やの空アモリ二園ニイイの才タツあさのよヨま  
せと、ちきよあアふとは、帝女ヒメノコロりり嫁カタハラして夫ウチハよ  
が、と紀カニ哉ガ、支那シナの馬鹿マフをもモ、陰原カクハラうらがよヨ  
とりりて、九二の剛湯カタハラ、あアかよカハ祉サハと文スルて、たよ若  
かカハで、此シの物モノを惜カミ我ガたまけタマケと成カルの城シテ、未メて是シよ  
まかせ、ちきよあアふよヨうきて、吉ヨシ。

○象曰以祉元吉中以行願也 どうぞ能く祉をもとむごとこ

るのみ、中道より是れよりは、陰氣を  
史法何よりも剛中ひよにすよ、まうぢりやうじりも

否よ反と申る所、城中の頬クツルとき我タキを申候少シカドくどお師シテ  
を申ひる所と申ゆりては、下宿シテ人ヒトに通スルがまし  
より、力カタい争アラシいなきと申つて申せば、少シカドくも  
御邑サト守シムて、申スルがまして行ハシマて免エヌカをす  
人の心ハコトを申スルちシマふれよ情シテて申スルなまを、

○象曰城徧于隍其命亂也。占小人奉彌刲之吉。勿用凶。勿用則吉。

祐み能<sup>ノ</sup>治<sup>サメ</sup>るを、仰持<sup>シテ</sup>て、爲<sup>ス</sup>の情<sup>シテ</sup>をもつり、  
○元龜<sup>白</sup>天地文泰之課<sup>ノ</sup>小柱大來之象<sup>ノ</sup>と云は、天地<sup>モ</sup>  
トヨリ、ゆうかる時<sup>ハ</sup>より、小のよか<sup>シ</sup>と、ゆき  
さりとて、たのよれど、あり、ちかくあるなり、

○ト解曰、奉者通<sup>ツラ</sup>也、天比陰陽<sup>ノ</sup>文<sup>キ</sup>、文通<sup>ト</sup>も、奉年<sup>カニ</sup>、  
焉<sup>モ</sup>子時<sup>ミツ</sup>とゆて、道長<sup>マツル</sup>ざ、少<sup>ノ</sup>人の行<sup>フ</sup>事<sup>ミ</sup>、  
み、ヒト和<sup>ハ</sup>同<sup>シ</sup>て、ちかくの事<sup>カ</sup>、

○ト彖曰、未<sup>シ</sup>小得<sup>タ</sup>大禍<sup>ハ</sup>、禍<sup>ハ</sup>避<sup>ハ</sup>福<sup>ハ</sup>、極<sup>シ</sup>もと<sup>シ</sup>む<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>、  
さ<sup>シ</sup>は極<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>とも、財<sup>ハ</sup>宜<sup>シ</sup>、是<sup>シ</sup>より通<sup>シ</sup>る<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>、  
や<sup>ハ</sup>一<sup>シ</sup>だら<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup>す<sup>シ</sup>よ<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>も、今<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup>て、ちかくし  
と云<sup>ハ</sup>り、

○評曰、天地文泰、陰陽和光、と云は、天地文、陰陽和合<sup>ト</sup>  
て、泰<sup>カ</sup>から<sup>シ</sup>よ、麟<sup>リ</sup>麟<sup>リ</sup>鳳<sup>ホウ</sup>、祥瑞<sup>シラスイ</sup>、  
人<sup>ハ</sup>今<sup>シ</sup>して、も<sup>シ</sup>通<sup>シ</sup>さん<sup>シ</sup>よ<sup>シ</sup>、  
ト<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup>て、吉<sup>ナリ</sup>、

○十干詩断曰、藏劍久埋光射斗、と云は、劍<sup>ハ</sup>久<sup>シ</sup>て、

まきしを埋めりて今先りうらやましきと行  
大勝乃初め思ふすよ翼<sup>ワガ</sup>破度てさううるさがぞく  
抑のとてこわりあよしてよひとゆむとよめり



